



## プレスリリース

平成 20 年 7 月 16 日

社団法人 日本原子力学会

(社) 日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる、学術・技術専門家集団として、社会への情報提供を行うため、本会の主要な動きについて、随時プレスリリースを行っています。皆様におかれましても、原子力に関するお問い合わせや取材申し込みのご希望がありましたら、極力対応させていただきますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

今回は、7月3日に新たに設立されました

**原子力安全部会に関するご紹介と**

来る8月8日に開催されます

**「原子力に対する不安とは？—それにどう対処するのか—  
(第8回シニアネットワークシンポジウム)**

ご案内を配付させていただきます。

是非、御社の紙面、番組などでお取り上げいただきますよう、ご検討ください。

★社会が求める横断的、総合的な原子力安全についての部会の設立

### 原子力安全部会 新設

初代部会長に、東京大学 班目 春樹 教授

合理的な安全規制のあり方、体系的な原子力法制、実効的な原子力防災、標準・規格の策定など、専門を超えた安全技術に対応するために設立！

★開催案内 シニアネットワーク連絡会第9回シンポジウム

**原子力に対する不安とは？  
—それにどう対処するのか—**

詳細内容は、別紙(両面印刷)をごらんください。

# 両面コピー

## 日本原子力学会 原子力安全部会を創設

日本原子力学会では、去る5月27日の理事会決定を受け、6月19日の総会にて17番目の部会として「原子力安全部会」の創設が承認され、7月3日（木）原子力安全基盤機構に設立総会を開催した。

最初に原子力学会長・岡芳明教授（東大）から、「原子力利用における安全の役割の大きさを考えるとき、原子力学会にこの部会がないことは長く気になっていたことです。原子力学会では、行動する学会を目指して様々な取り組みを始めているところであり、原子力安全部会の活動に期待しています。」との挨拶があり、参加した有志約50人により初代の部会長として班目春樹教授（東大）が選出された。

班目教授は「社会が何を求めているかを見据えて、それに応えるには何が必要かを考えて行動していきたい」と挨拶した（写真は就任挨拶をする班目教授）。

原子力学会には、原子力安全に係わる個々の専門分野、たとえば、材料、燃料、炉工学、炉物理、熱流動といった技術分野についての部会は以前から設置され、それぞれの部会はその中で積極的に活動し、原子力安全についても個別の分野ごとに議論・検討されてきた。一方、原子力安全そのものを対象とし、安全の横串を通す機能を有する部会の必要性が従前より指摘されていた。学会外からは原子力学会をはじめとする学協会に、原子力安全に関して従来以上に直接的に貢献することが期待されている。たとえば、規制行政当局からは、規制に必要な技術基準の性能規定化等を進める上で、規制上の要求事項を具体化する標準・規格の策定が期待されており、標準・規格の整備や一層の安全性の向上に向けて、産官学でどのような研究を実施するべきかという、安全研究ロードマップの策定も期待されている。産業界からは、原子力施設の安全を確保しつつ所要の業を遂行していく上で必要な体系化された標準・規格の策定、原子力施設の安全やリスクに関する情報の共有・発信などが期待されている。また、安全確保を前提とした原子力法制のあり方の検討や安全設計思想の整理・検討は、各所から期待されているところである。

原子力学会は、こうした現状を踏まえて、原子力安全に係わる活動を積極的かつ横断的に進めていくことが必要と認識し、その活動の基盤として、「原子力安全部会」を設置することとした。

原子力安全部会は、合理的な安全規制のあり方、より体系的な原子力法制、より実効的な原子力防災、長期的な原子力安全研究計画、安全解析手法の高度化や結果の利用法など、個別の技術分野ではカバーしきれない原子力安全に特有の分野において、知識の集約や普及・向上に努める。同部会はまた、学会内外の専門家・専門組織と協力して、原子力安全に係る事項について議論・検討し、知識の集約と体系化を図る。



2008年7月15日

## 日本原子力学会シニアネットワーク連絡会第9回シンポジウム

### 「原子力に対する不安とは？－それにどう対処するのか」

#### の御案内

世界はエネルギー・環境問題から原子力推進の方向に大きく動き出しています。わが国では、原子力立国計画を確立し推進の方向は打ち出してはいるものの、国民・社会のコンセンサスが必ずしも十分ではなく様々な問題に直面している状況です。日本原子力学会シニアネットワーク連絡会（SNW）と共催2団体はこれらの問題に注目し、本年3月に「原子力コミュニケーションのあり方を問う－社会と原子力界との相互信頼を求めて」というテーマでシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムでは、社会と原子力界双方のコミュニケーションの拡大・深化が不可欠であることを参加者の皆様と共に認識することが出来ました。しかしながら、具体的に対処するには、さらに問題を掘り下げ“国民・社会は原子力の何を不安と思っているのか？”を明確にする必要があることも明らかとなりました。

このためにSNWは、原子力関係諸団体、OB有志諸氏のご賛同を得て、下記により第9回シンポジウムを開催することにいたしました。

講師・パネリストには、社会学者、学協会関係者、電力事業者、NPO団体、立地地元、マスコミにも加わっていただき、具体的な原子力に対する不安事象として放射線問題と耐震問題を取り上げ、フロアとの対話も交え、それぞれの立場を超えて大いに語り合いたいと存じます。つきましては、皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

#### 記

日時：2008年8月8日（金）10：00～17：10（開場 09:30）

場所：東京大学武田先端知ビル5階

主催：（社）日本原子力学会 シニアネットワーク連絡会（SNW）

共催：エネルギー問題に発言する会、エネルギー戦略研究会（EEE会議）

後援：日本原子力技術協会、日本原子力産業協会、日本原子力文化振興財団

#### プログラム

第1部（10：10～12：00）：原子力に対する国民の不安とは何か？

第2部（13：00～17：00）：放射線と地震に関する国民の不安にどう対処するか  
終了後ロビーにて懇親立食パーティ（会費制）を行ないます。

参加料：1,000円（学生は無料） 懇親会費：3,000円（学生は1,000円）

詳細及び参加登録：SNW ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/snw/>) より。

以上